
back ! ! !

若桜みずき

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

back!!!

【Nコード】

N4795V

【作者名】

若桜みずき

【あらすじ】

「何で、あんたみたいな表の人間がこの学園におるん？」

親の転勤により、俺の人生が180 変わる。

黒歩学園・・・そこはマフィアやヤクザの幹部になるための知識を学ぶ為の、つまり裏社会教育学校であった。

そうとは知らず、転校してしまった俺く五反田希里く

「抗争じゃあああああ！！！！！！」

「ええ！？」

そいつらは俺の非日常を日常と化している。

「あんた、ちゃんと前見とかんと・・・ケガするで銃口つきつけられるのも、慣れてしまふのだろうか。」

あはは・・・。

てか、俺の青春を返せ！！！！

プロローグ

「転勤することになった」

そう、父親が言った

「「「へー」」」

俺以外の家族、母さん、兄貴、弟は無関心

「へー・・・って、ええ！？転勤！？」

俺は、思わず大きな声を出す。

「ちよっと、うるさいわよ希里。」

母は手で耳を覆いかぶせている

「いや、てか何で俺以外は衝撃受けてないんだよ！？」

「そうだ希里、お父さんはそのリアクションが欲しかったんだ！！」

あ、何か褒められた。

「いつ引っ越すの？」

弟の由貴が父さんに首を傾けて聞く

「え、明日」

「・・・、明日あああ!!!??」

「「「へー」「」」

何か、おかしい家族がおかしい・・・。

「「「へー」「」」

「「「へー」「」」

「は?何、皆どうした?」

「「「へー」「」」

「「「へー」「」」

「ど、どうなってだよ~~~~!!!」

「つて、おきて!!きーくん起きろ!!!」

「うわぁ!!・・・由貴か・・・、それより夢?」

朝の日差しがカーテンから漏れている

今日の天気が快晴だな、こりゃ

「きーくん、どうしたの?うなされてたよ?」

「な、何か変な夢を見ちゃって」
今でも、思い出すだけで怖い・・・というかおかしい。

「はあ、本当に怖っ、じゃなくておかしい夢だった」

「僕、さっき

『HEY、HEYへーたくん』という絵本を読んだけど関係ないよね？」

「うん、それだ」

「ところで、きーくん」

「ん？どうした」

「はやく準備しなくていいの？」

「何の？」

「だって、今日はお引越しの日だよー!」

忘れてた……それは夢じゃなくて本当だったことを。

黒歩

「希里、学校へ行く準備はできた？制服とか大丈夫？」

母さんが、心配して俺の部屋に来た。

今日は、新しい学校に通い始める日で

小学校や中学校1年生の時のときめき感は今もってない。

「まあ・・・、できたはできたけど・・・

制服が黒服というのが・・・」

明らかに、制服にしては生地が厚いと思うんだけど。

「何言ってるの、かつこいいじゃない！！軍隊服みたいよ！！」

お母さんはキラキラの笑顔で、俺の制服に見とれていた
妙に恥ずかしくなってくる・・・。

「おお、何？希里の新しい制服？」

げ・・・兄貴！？

ドアから、ひょいと顔を出して、こっちをみている

「へえ、かつこいいじゃん！！新しい学校で、いい女の子見つけるよ？」

まあ、大丈夫か。俺の弟だし」

兄貴《五反田有馬》は、一言で言うと「チャライ」

毎回いつも違う女の人と歩いているのを見かける。何股しているんだろう・・・。

だが、おれより頭が良く運動神経抜群。

「似合ってるってお兄ちゃんも言ってるんだから、自信持ちなさい」

お母さんが、俺に向けてピースするが

「いや、別に、そこは問題ではなく。」

「あ、そういえば、お母さん。香水変えた？良いね」

でた！！

「お兄ちゃん、すごい！！わかったの！！さすがね」

誰だ、こんなチャライやつを産んだのは・・・お母さんまで口

説くつもりか！！

俺は、苛立ちながら家を出た

「さて、と。なんだっけ？学校の名前？」

俺は、ポケットから紙を取り出す

そこには、手書きの地図と学校名を書いていた

「黒歩学園か、変わった名前だなあ」

交差点を右。塚畑病院をまっすぐ。2つ目の信号機を右。

郵便局を左。

やたら、頭がこんがらがる。この地図と文での案内をかいたのは、兄貴。

「兄貴。絵心だけないんだよね」

もう、地図はあてにならない！！！！

「カラオケしょっぱ」ミサワ」を左に進んでいくと、
そこがゴールって・・・・・・・・」

書いてある通りに進み、顔をあげた

「ま、まさかここ？・・・な訳ないよねー。」

嘘であつて欲しかった。

今にでもお化けがでそうな洋館。手入れも行き届いてなく、荒れて
いる植物。

そして、黒歩学園と書かれているプレートは完全に錆びていた

「ははは。………つてまじかよ。」

俺が、目を通したこの学園のパンフレットには

『創立2年のピカピカの校舎！』なんて書いてあったのに！！

「絶対20年は、たつてるな」

とにかく、門をくぐり校舎に入り、職員室に行こう

黒歩学園の門を俺はくぐった
まず第一段階、ミッシェンクリア

その時だった

門をくぐり抜けた瞬間、叫び声がきこえた

「よける!!!!!!!!!!その男子!!」

「え？」

俺は声の主の方に、顔を振り向けた

シュッ

なんかが俺の横を通りすぎる

それと、同時に俺の頬に生暖かいものを感じる

頬を触ってみると、触った手は赤の色に染まっていた

「っ、血！？なんで！？」

「アンタ、そこどき」

俺の目の前に、誰かが立ちはだかった

顔を上げて真っ先に目に写ったのは、両手にもっていた二丁拳銃。

そして、俺にその人は言った

「あんた、ちゃんと、前見とかんと……ケガするで」

銃口を俺に向けながら。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4795v/>

back!!!

2011年11月21日09時39分発行